

令和8年6月4日

練馬区長

吉田健一 様

練馬区教育委員会教育長

三浦康彰 様

練馬区議会自由民主党

台風等の気象災害時における区立学校等の臨時休校判断及び保護者への連絡体制改善を求める要望書

日頃より、練馬区政ならびに練馬区の教育行政の推進にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。

さて、令和8年6月3日、台風第6号の接近に伴い、区立小・中学校および幼稚園（以下、「各学校等」とする。）の登校・登園に関する判断をめぐり、多くの保護者、児童・生徒、各学校等に不安と混乱が生じました。練馬区教育委員会は、現行の臨時休校基準に基づき、「当日午前7時時点」の気象警報等を踏まえた判断を行いました。一方で、他自治体では前日の段階で休校またはオンライン授業等を決定した例もあり、判断時期の差が各家庭に大きな影響を及ぼしました。

さらに当日朝、保護者への公式連絡手段である情報連絡用システム「sigfy」が繋がりにくい状況となり、区公式ホームページにおいても原因調査中である旨が掲載されました。その結果、必要な情報を得られない保護者から各学校等や区に対して問い合わせが集中し、電話対応に追われる状況が生じました。

近年、台風や線状降水帯など、自然災害は激甚化・頻発化しており、登下校時間帯の安全確保については、従来以上に迅速かつ柔軟な判断が求められています。今回の事態は、個別の判断の正否を問うものではなく、現行の基準、連絡体制、代替手段確保など制度設計上の課題として捉える必要があります。

我々練馬区議会自由民主党は児童・生徒の安全確保、並びに教員負担の軽減という観点から、下記の事項について速やかに対応されるよう強く要望いたします。

記

1 基準の見直し

現行の当日午前7時時点の警報を基準とする運用に加え、台風の接近予測、登下校時間帯や公共交通機関への影響の有無等を総合的に勘案するとともに、例えば「前日の午後5時」等、一定の時刻までに臨時休校や登下校時刻の変更、オンライン授業へ切り替える等の判断ができるよう基準を見直すこと。また、当日判断を行う場合においても、午前7時時点の警報の有無のみならず、登下校時間帯における気象予測、道路冠水や河川増水の状況、地域毎の危険箇所の状況等を踏まえた総合的な判断基準へ見直すこと。

2 代替連絡手段の確保

現在唯一の公式連絡手段となっている sigfy に障害が発生した場合でも、保護者が確実に公式情報を確認できるよう、区や各学校等のホームページ、メール、SMS、区公式 LINE、防災アプリ、SNS 等を組み合わせた複線的な情報発信体制を整備すること。その際、障害発生時の情報発信の順序・要領等を保護者に事前に明示し、緊急時に正確な情報を混乱なく得られるような仕組みを構築すること。

3 sigfy 障害の原因調査および再発防止策の公表

令和8年6月3日に発生した sigfy の障害について、原因、復旧までの経過、委託事業者との対応状況等を詳細に調査し、保護者及び議会に公表すること。また、再発防止に向けた具体的な改善策を示すこと。

4 教育委員会の主体的判断による対応の統一化

今回、保護者間で混乱が生じた要因の一つが、対応を各学校の判断に委ねた点だと考えます。同一の気象要件にも関わらず、各学校等で異なる対応が発生する事態は、理解が得られません。災害・風水害に起因する判断については、区全体で対応が統一されるよう、教育委員会が責任をもって、主体的に判断すること。また対応決定後は、保護者からの問い合わせの対応など教育委員会が直接担うこと。

5 保護者・各学校等からのヒアリングの実施

今後の基準見直しにあたっては、小・中学校 PTA 連合協議会、校長会、各学校等の関係者から幅広くヒアリングを実施し、それぞれの立場が課題を共有した上で、実効性のある運用ルールを構築すること。

6 改善方針および工程の議会報告

小学校 PTA 連合協議会が発出した当件に関する要望書への回答期限を基準とし、区および教育委員会としての回答を速やかに示すこと。また、規則・基準の見直し等の改善方針を議会に報告すること。

7 臨時休校時の保育を必要とする家庭の対応

エッセンシャルワーカーをはじめ、共働きで仕事が調整できない家庭も存在するため、児童・生徒の安全を第一に考えつつ、学童クラブの開室前倒しや教室での見守り体制の構築など、安全安心な体制を整えること。

以上

今回、大きな事故に繋がる事がなかった点は幸いです。今後同様の状況が発生した際に、今回のような混乱が再び発生しないよう、しっかりと体制を整えておく必要があります。練馬区および練馬区教育委員会におかれては、本要望の趣旨を十分に踏まえ、早急の実効性ある改善に取り組まれるよう強く要望いたします。